

## 新規事業箇所調書

		調書作成年月日	平成20年 2月12日																							
		事業担当課	道路課																							
<b>事業名</b>	浦宿道路改良事業	<b>補助・単独の別</b>	補助	<b>事業主体</b>	宮城県																					
<b>施行地名</b>	(一) <small>いしのまきあながわせん</small> 石巻女川線 <small>おながわちよううらしゆく</small> 女川町浦宿地内			<b>管理主体</b>	宮城県																					
<b>根拠法令</b>	道路法第12号, 第74条第2項, 道路施行規則第8条																									
<b>事業</b>	<b>事業目的</b>	<p>当該区間は, 石巻市に至る女川町の市街地入口であり, 生活・産業上非常に重要な通過地点となっている。近接する国道398号は, 幅員が狭くJR石巻線陸橋の影響から通過車輛の制限を受け, また大雨時には冠水し通行止めになるなど生活物流上支障となっている。</p> <p>また, 防災対策を重点的に充実すべき地域の範囲(EPZ)にも入っており, 原子力防災上においては緊急支援物資の輸送路及び町外避難時の避難道路として利用される路線である。このため, 緊急に本路線を整備し早期に供用を図る必要がある。</p>																								
	<b>事業内容</b>	<p style="text-align: center;">延長 L=1,550m 3種2級(V=60km) W=6.5(10.5)m 橋梁 1橋</p>																								
<b>業</b>	<b>事業費</b>																									
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">全体事業費</th> <th colspan="4">費用負担内訳</th> </tr> <tr> <th>国</th> <th>県</th> <th>市町村</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td></td> <td>内用地費</td> <td>[ 55% ]</td> <td>[ 45% ]</td> <td>[ % ]</td> <td>( ) [ % ]</td> </tr> <tr> <td>41.9億円</td> <td>4.5億円</td> <td>23.7億円</td> <td>18.2億円</td> <td>億円</td> <td>億円</td> </tr> </table>				全体事業費		費用負担内訳				国	県	市町村	その他		内用地費	[ 55% ]	[ 45% ]	[ % ]	( ) [ % ]	41.9億円	4.5億円	23.7億円	18.2億円	億円
全体事業費		費用負担内訳																								
		国	県	市町村	その他																					
	内用地費	[ 55% ]	[ 45% ]	[ % ]	( ) [ % ]																					
41.9億円	4.5億円	23.7億円	18.2億円	億円	億円																					
<b>の</b>	<b>事業期間</b>																									
	<b>事業期間</b>	平成20年度～平成30年度( 11年間 )																								
	<b>用地買収着手予定年度</b>	平成21年度	<b>工事着手予定年度</b>	平成22年度																						
	<b>施設管理の予定</b>	<p>完成後の施設管理主体は, 宮城県となるが, 平成13年度から全県的に推進しているアドプト制度「みやぎスマイルロード・プログラム」の活用等により, 官民一体となった管理体制の実現を図っていきたい。</p>																								
<b>要</b>																										

事業の必要性	<b>上位計画等</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>原子力発電施設等立地地域の振興に関する特別措置法に基づく『宮城県原子力発電施設等立地地域の振興に関する計画』に位置づけされている。</li> <li>宮城の将来ビジョン（平成19年3月） 「宮城の飛躍を支える産業基盤の整備」の実現に向けた取組「広域道路ネットワークの整備」として整備促進。</li> <li>土木行政推進計画（宮城県土木部） 石巻圏域発展の基盤となる交通ネットワーク形成のため事業を進めていくこととしている。</li> </ul>
	<b>事業を巡る社会経済情勢等</b> <p><b>社会経済情勢</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>JR石巻線の陸橋交差部の高さが不足しておりコンテナ運搬車の通行不能となっており、未整備の幅員狭小の道路を迂回している。また、陸橋があるため右折レーンの設置が不可能であることから、コバルトライン方向へ右折する車が滞留することにより女川町市街地へ向かう車両の渋滞を助長している。</li> <li>三陸縦貫自動車道の延伸に伴って、女川港を含む市街地から物流・交流のためのアクセス道路の必要性がより大きくなっている。</li> </ul> <p><b>地元情勢，地元の意見</b></p> <p>宮城県町村会及び三陸自動車道・アクセス道路建設促進期成同盟会等から、三陸縦貫自動車道と女川町をアクセスする道路として、国道398号石巻バイパスとともに要望が大きくなってきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地場産業の水産業を支える物流円滑化及び原子力防災上の観点から地元からの事業要望は大きい。</li> </ul>
事業の有効性	<b>事業効果</b> <p><b>想定される事業効果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>女川港への交通円滑化 石巻市市街地と女川港を結ぶ現道は家屋は建ち並び車道幅員が狭く水産物のを中心とする物流機能は不十分であったが、市街地を避けて国道398号に接続するバイパス化とすることで女川港を中心とする物流機能は大幅に向上する。</li> <li>バイパス化による歩行者の安全性の向上 現道は店舗及び住居が建ち並び女川町中心市街地を通過しているため、車道幅員も狭く更には狭小な歩道により歩行者安全性が脅かされている。バイパス化により通過歩行者の安全が確保されるとともに、現道交通量が減少することにより現道部の歩行者の安全性が向上する。</li> <li>災害時安全性確保 現道区間は、異常降雨時に冠水し通行不能に陥ることがある。また、本路線は女川町中心部から石巻地区方面への唯一の路線であり災害時の交通混乱が懸念されている。バイパス化により交通混乱が回避され、緊急車両等の迅速性が増し、定時性が確保され、地域防災強化にも寄与される。</li> <li>原子力発電施設立地地域の緊急輸送及び避難路の確保 第二次医療施設・消防署をつなぎ、三陸縦貫自動車道からのアクセス道路として緊急輸送活動を支援するものである。また、町外及び広域避難時の基幹道路として寄与するものがある。</li> </ul>

事業の効率性	<b>関連事業の概要・進捗状況等</b>										
	<p>接続する町道旭が丘万石浦線の改良は完成済みである。          国道398号石巻バイパス 期が平成22年度に完成し、さらに 期区間の事業進捗により、交通量の増加が見込まれバイパス機能としての機能が向上する。</p>										
	<b>代替案との比較検討</b>										
	<p>本ルートは他ルートと比較して、バイパスとしての平面縦断線形が最も優れたものであり、現在整備されている町道へ直接接続し、JR石巻線及び電力鉄塔への影響が少なく、土地利用性、経済性など総合的に優れているルートである。</p>										
効	<b>コスト縮減計画</b>										
	<p>橋梁部において、JR石巻線への影響を抑えることによって、コストを縮減を図る。          周辺事業との調整を図り、残土の利活用を図ることによって、コスト縮減を図る。</p>										
率	<b>費用対効果</b>										
	<p>現在、算出中。</p>										
環境への影響と対策	<b>地域指定状況等</b>										
	<p>特になし。</p>										
性	<b>影響と対策</b>										
	<p>起点部終点部共に、極力切土量を抑えた線形であり、また海域部への土工事を抑え、橋梁形式とすることによって自然環境に与える影響も少ない。</p>										
総合評価	<b>事業箇所評価結果</b>										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評点による順位</th> <th>予算化された箇所数</th> <th>評価結果と予算への反映状況が異なる場合の理由 (低順位にもかかわらず予算化された理由)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道路建設事業(県道) (新規事業箇所)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1位 / 1</td> <td>1箇所</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評点による順位	予算化された箇所数	評価結果と予算への反映状況が異なる場合の理由 (低順位にもかかわらず予算化された理由)	道路建設事業(県道) (新規事業箇所)			1位 / 1	1箇所		
	評点による順位	予算化された箇所数	評価結果と予算への反映状況が異なる場合の理由 (低順位にもかかわらず予算化された理由)								
	道路建設事業(県道) (新規事業箇所)										
1位 / 1	1箇所										
	<b>対応方針</b>										
	事業実施										

